

（ 川上村「第1回まるごと吉野杉フェア」開催 ）

奈良県川上村で、平成18年7月29日～30日、「第1回まるごと吉野杉フェア」（主催：川上の材PR運営委員会など）が開催された。

同フェアは、昭和61年から20年間続いた「全日本そまびと選手権大会」（丸太の早切りや木登りなど林業作業を競技にしたもの）の後継イベントであり、川上村の木材の良さを消費者ならびに施主・工務店の方に、直接アピールすることが目的となっている。

なお、川上村は、平成17年3月24日、村有林の全てについて「SGEC『緑の循環』認証会議」の認証を取得した。この認証により持続可能な森林として、環境に優しい森林経営を目指す宣言を全国にした。

同村は吉野杉の主産地で、かつては豊臣秀吉が大阪城の築造に用いた材を産出し、江戸時代には灘・伏見の酒樽の生産地として栄えてきたところ。近年はマンションなど鉄筋コンクリートの建物が増えた他、集成材、新建材が席捲し、林業・木材業界の低迷が続いているが、反面、健康・環境志向が高まり、自然素材の木造建築を求める人が増加している傾向にある。

そういうニーズも踏まえ、吉野スギやヒノキが育てられている同村の姿を知ってもらおうと、フェアの2日間に次の3つのツアーが実施された。

■吉野杉伐採ツアー：樹齢100～120年のスギが伐採され大きな音と共に木が倒れる瞬間を体験し、新しい建材として生まれる過程を見学。

■下多古村有林ツアー：この村有林には推定樹齢290～390年の杉の大木が10本、250年のヒノキ52本が残っている。大木を間近に見て、吉野林業の歴史を実感。

■吉野川源流ツアー：吉野川は、年間4,000ミリ以上の雨が降る大台ヶ原を源流としている。筏場～五色湯跡まで歩いて、スギ、ヒノキが育てられている森を見学。

また、川上村林材会館前では、人と森林が交わる空間として、「森林のコンビニ」を催し、様々なブースが展示された。

■吉野スギ・ヒノキの展示：直径90cmのスギ丸太や、木造住宅を建築する時に使用する木材製品を展示。

■吉野杉空間：間口2m、奥行き4mの空間に吉野杉の柱6寸（18cm）が4本立ち、床板はスギとヒノキが半分ずつ、横の腰板は外から見ると焼スギで、内側はきれいな木目。靴を脱いで歩いて体感してもらった。（上田）



下多古村有林ツアー



「森林のコンビニ」の様子
(写真提供：川上の材PR運営委員会)

これからの主な催し

〔四季の花〕

●9月中旬～10月下旬【コスモス】

般若寺

西国薬師第三番、関西花の寺第十七番札所であり、コスモス寺の名称で親しまれている。

JR・近鉄奈良駅から般若寺、青山住宅、州見台6丁目行きバスで約12分「般若寺」下車 徒歩5分 TEL：0742-22-6287

〔主な行事〕

●9月23日（祝）

大和神社 紅しで踊奉納

大和神社の秋季大祭に奉納される踊り。江戸時代に起こった「雨乞い満願踊り」を、昭和43年に復活。「しで（注連縄などに下げる紙）」を紅色に変えて「紅しで踊」と呼ばれるようになった。JR 桜井線長柄駅 徒歩8分、JR・近鉄天理駅から桜井駅北口行きバス「大和神社前」下車 徒歩5分 TEL：0743-66-0044